

## 《Lesson 2》助動詞 would の使い方：will の過去形

would には、いくつか使い方がありますが、まず覚えるべきなのは

### will の過去形としての would の使い方

についてです。「will は、未来のことを表す時に使われる助動詞なのに過去形があるってどういうこと？」と疑問に思うかもしれませんが、理解のポイントは、

would は「**過去の時点から見た未来**」について説明する時に使われる

ということです。具体的には

**I think + ~ will ~. や I know + ~ will ~. を過去形にする時に使われます。**

例えば、以下の文。

I think (that) she will finish her homework.

(彼女は宿題を終わらせると思います)

こちらの文を過去形にする時は、まず I think の部分を過去にするので、I thought となるのですが、問題はこの後に登場する will。こちらは、will のまま残しておくことができません。そこで登場するのが、would となります。つまり

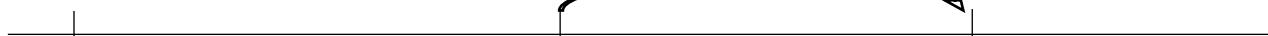
I thought (that) she would finish her homework.

(彼女は宿題を終わらせると思いました)

“I think (that) she will finish her homework.”

【過去】

【現在】



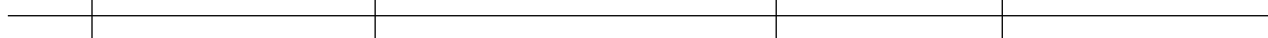
私が思っている時

彼女が宿題を終わらせるであろう時

“I thought (that) he would buy this book.”

【過去】

【現在】



私が思った時

彼女が宿題を終わらせるであろう時

彼女が宿題を終わらせるであろう時

\* 「彼女が宿題を終わらせる時」は【現在】を超えて【未来】の場合もありえる。

「英語では、使われている状況を想像するのが大事」といつも言っていますが、今回の **would** の使い方も、「どのような時に使われるのか？」ということイメージすることが大事です。

そして、**would** は助動詞なので、使い方は **should / can** のように、肯定文の場合は動詞の前に、否定文の場合は、肯定文の助動詞の後に **not** を足して、疑問文の場合は文頭に **would** を置けば完成となります。

文の種類	作り方	例
肯定文	be 動詞や一般動詞の前に置く。	She <u>would</u> finish her homework.
否定文	肯定文に登場する助動詞の後に <b>not</b> を足す。	She <u>would not</u> (wouldn't) finish her homework.
疑問文	文頭に <b>would</b> を置く。	<u>Would</u> she finish her homework?

### ポイント！ would は was / were + going to と同じような使い方

**will** と **am / is / are + going to** は両方とも「未来を表す表現」として、よくセットで紹介されます。例えば、以下の2文はほぼ同じ意味で使われます。

- I think they will do this tomorrow.
- I think they are going to do this tomorrow.

これと同様に **would** と **was/were + going to** は「過去から見た未来を表す表現」として、使うことができます。つまり、以下のようになります。

- I thought they would do this tomorrow.
- I thought they were going to do this tomorrow.